

PSMA 陽性転移性去勢抵抗性前立腺がんに対する放射性リガンド療法 「¹⁷⁷Lu-PSMA-617（プルヴィクト）」の提供開始について

国立大学法人神戸大学医学部附属病院は、このたび、PSMA（前立腺特異的膜抗原）陽性転移性去勢抵抗性前立腺がん（mCRPC）を対象とした放射性リガンド療法「¹⁷⁷Lu-PSMA-617（商品名：プルヴィクト）」の提供を開始し、2025年11月20日に西日本で1例目となる患者様へ第1回目の投与（6週ごとに最大6回投与）を、当院の泌尿器科において無事に実施致しました。

なお、本治療の対象となるPSMA陽性病変を検出するためのPSMA-PET検査の運用を開始しましたことも併せてご報告致します。

前立腺がんは我が国の男性において最も罹患数が多い癌であり、その中でもmCRPCは、前立腺がんが骨やリンパ節など全身へ転移し、男性ホルモンを抑える標準的なホルモン治療にも反応しなくなった難治性の病態です。病勢が進行しやすく、治療選択肢が徐々に限られていくため、患者の生活の質（QoL）や予後に大きく影響を及ぼす病態です。これまではホルモン薬やタキサン系化学療法、放射線治療などが組み合わせて用いられてきましたが、治療効果の減弱や副作用により長期継続が困難になることも多く、新たな治療手段への期待が高まっていました。

¹⁷⁷Lu-PSMA-617療法は、近年、がん治療の新たなモダリティとして非常に注目を集めている放射性リガンド療法の一つで、前立腺がん細胞に特異的に発現するPSMAを標的とし、リガンドに結合した放射性同位体ルテチウム-177により、がん細胞へ放射線を直接届けることで転移巣を含むがん細胞を効率的に攻撃できる点が特徴です。海外第III相試験A12301/VISION試験およびB12302/PSMAfore試験にもとづき、従来治療が効かなくなったmCRPCの患者さんにおいて¹⁷⁷Lu-PSMA-617の有効性及び安全性が示され、欧米では2022年から本治療が開始されています。一方、日本では2025年9月に承認されるまでの間、患者さんが自己負担で海外渡航し治療を受けるしか手段がなく、長らく承認が待たれている状況でした。

そのような中、当院では承認後の速やかな導入に向けて約1年前から泌尿器科、放射線部、看護部からなるワーキンググループを発足させ、これまでの他疾患に対する核医学治療で培ったノウハウを元に、本治療のための特別措置病室の整備や治療マニュアルの作成を進めてきた結果、この度の1例目の導入に至りました。

当院は、患者さん一人ひとりの病状や治療歴に応じて、適応の有無を慎重に判断し、専門医・核医学チームによる多職種連携のもと本治療に取り組み、前立腺がん治療の発展と患者さんの生活の質（QOL）向上に貢献する取り組みを今後も一層推進してまいります。